



2022年6月の抜本改正により新設される『じちろう退職者団体生命共済』は、これまでの団体生命共済とは違い在職中のみの取り扱いだけではなく、在職中および退職後を通して"生命医療保障"に関する主軸制度として、より安心した運用を続けていくことができます。

なお、掛金・保障内容の両面で「じちろう共済」の特性および規模を活かした制度の提供が可能となりました。

但し、あくまでも必須条件として『在職中の団体生命共済への加入』が必要であることをお忘れなく!!

在職中の「団体生命共済」加入者が、退職後も **85歳** まで御利用可能になる『**新**じちろう退職者団体生命共済』の御紹介をさせていただきます。

<新たな生命医療保障の体系について>

在職中(現役)期間	退職後の体系(既存制度の取り扱い含む)
団体生命共済	新 じちろう退職者団体生命共済が新設!! こくみん共済coop<全労済>退職者団体生命共済は2023年5月末で新規移行が停止
長期共済(積立)	退職後共済 ◎年金給付(定期・終身)……年金を主目的にする共済にシフト!! 年金給付・終身医療給付・遺族終身給付は変更なし 医療給付(定期・終身) 遺族給付(定期・終身) ※ 定期医療給付と遺族定期給付は2026年5月末で新規移行が停止
税制適格年金(積立)	年金給付(定期・終身) 取り扱いの変更等はありません

右頁で解説

共済制度改定によって『がん保障』や『先進医療保障』等が充実し、健康に対する不安が高まる退職後に関しても安心の制度に生まれ変わります。ちなみに生涯のうちで「がん」に罹患する確率的には、男女共に約2人に1人の割合と言われており、年齢を重ねれば更に『罹患リスク』は高まります。

○病気入院共済金 ○退院後病気通院共済金 ○成人病入院共済金 ○手術共済金
上記にプラスして ○がん診断共済金 ○上皮内がん診断共済金 付帯で充実サポート!!

重要 Point ~退職後も安価な掛金で充実した保障「じちろう退職者団体生命共済」~

先進医療保障に関しても、先進医療の技術「重粒子線治療」や「陽子線治療」等は全額自己負担となっており、場合によっては数百万円単位の金額になることも。

<先進医療(がん治療)の費用負担>

厚生労働省:令和元年6月30日現在

先進医療技術名	1件あたりの先進医療費用	年間実施件数
重粒子線治療	3,089,343 円	720 件
陽子線治療	2,697,658 円	1,295 件

※ 先進医療とは、健康保険で「高度な医療技術を用いた療養」として国が指定した医療技術・医療機関で行われる療養のことを言います。

◎ 1件あたりの先進医療費用とは ⇒ 各技術の先進医療費用総額 ÷ 年間実施件数

じちろう退職者団体生命共済の先進医療保障内容

1回につき **1,000万円** を限度に保障を致します!! (通算限度等はありません)



年金給付

一定期間にしっかりと受け取りできる『**確定年金**』
一生涯にわたって受け取りができる『**終身年金**』

- **確定年金** : 選択した受け取り期間は「生死」にかかわらず支払い。(配偶者の確定年金はありません)
○ 年金受取期間設定 …… 5年・10年・15年から選択(複数選択不可)
○ 年金年額 …… 12万円～120万円
- **終身年金** : 被共済者(組合員本人・配偶者)が生存している限り(生死に関係なく)年金を支払い。
○ 年金受取期間設定 …… 一生涯(保証期間:年金開始日から15年間/75歳までのいずれか短い期間)
○ 年金年額 …… <本人>12万円～120万円 <配偶者>24万円～90万円

医療給付

医療費の自己負担が高い時期に備える『**定期医療給付**』
一生涯にわたってカバーができる『**終身医療給付**』

- **定期医療給付** : 医療保障を付帯する団体生命共済に5年以上加入で、現症・既往症による給付制限がありません。
○ 70歳満期型・75歳満期型・80歳満期型(満期時に生存されていた場合に支払い)
- **終身医療給付** : 75歳以上は健康保険の自己負担額が軽減されるため、75歳までの保障を手厚くした「一生涯」にわたって備える医療保障となります。(掛金負担を軽減)

遺族給付

一定期間を保障する『**遺族定期給付**』
一生涯を保障する『**遺族終身給付**』

- **遺族定期給付** : 満了日までの間に「死亡」「重度障害」となった場合に共済金を支払います。
○ 保障額⇒遺族定期給付のみ【医療給付も選択する場合】……100万円～500万円
【医療給付を選択しない場合】…200万円 or 300万円
- **遺族終身給付** : 「死亡」「重度障害」となった場合に共済金を支払います。保障は『一生涯』です。
○ 保障額⇒遺族終身給付のみ【医療給付も選択する場合/選択しない場合】…100万円～1,000万円

※ 遺族定期給付と遺族終身給付の併用 ⇒ 遺族定期給付保障額 → 100万円～500万円
遺族終身給付保障額 → 100万円～900万円